

記 者 提 供 資 料
2025 年(令和 7 年) 8 月 22 日
市民生活局文化・スポーツ室 歴史文化財担当（担当：稲原・谷川） TEL：918-5629（内線：7221）

魚住町清水で明石市内において初となる磨製石剣が発見

このたび、個人住宅建設工事に伴って令和 7 年 7 月から 8 月にかけて行われた発掘調査で、弥生時代中期（紀元前 100 年～紀元後 100 年頃）の堅穴建物跡から磨製石剣が出土しました。

調査地は明石市魚住町清水字^{おうかんにし}往還西に所在しており、瀬戸川河口から約 3 km さかのぼった東岸の標高約 24m の河岸段丘上に立地しています。調査地の西側約 30m の地点では、最近の調査で弥生時代前期の柱穴や土器、弥生時代後期の堅穴建物跡などが見つかりました。

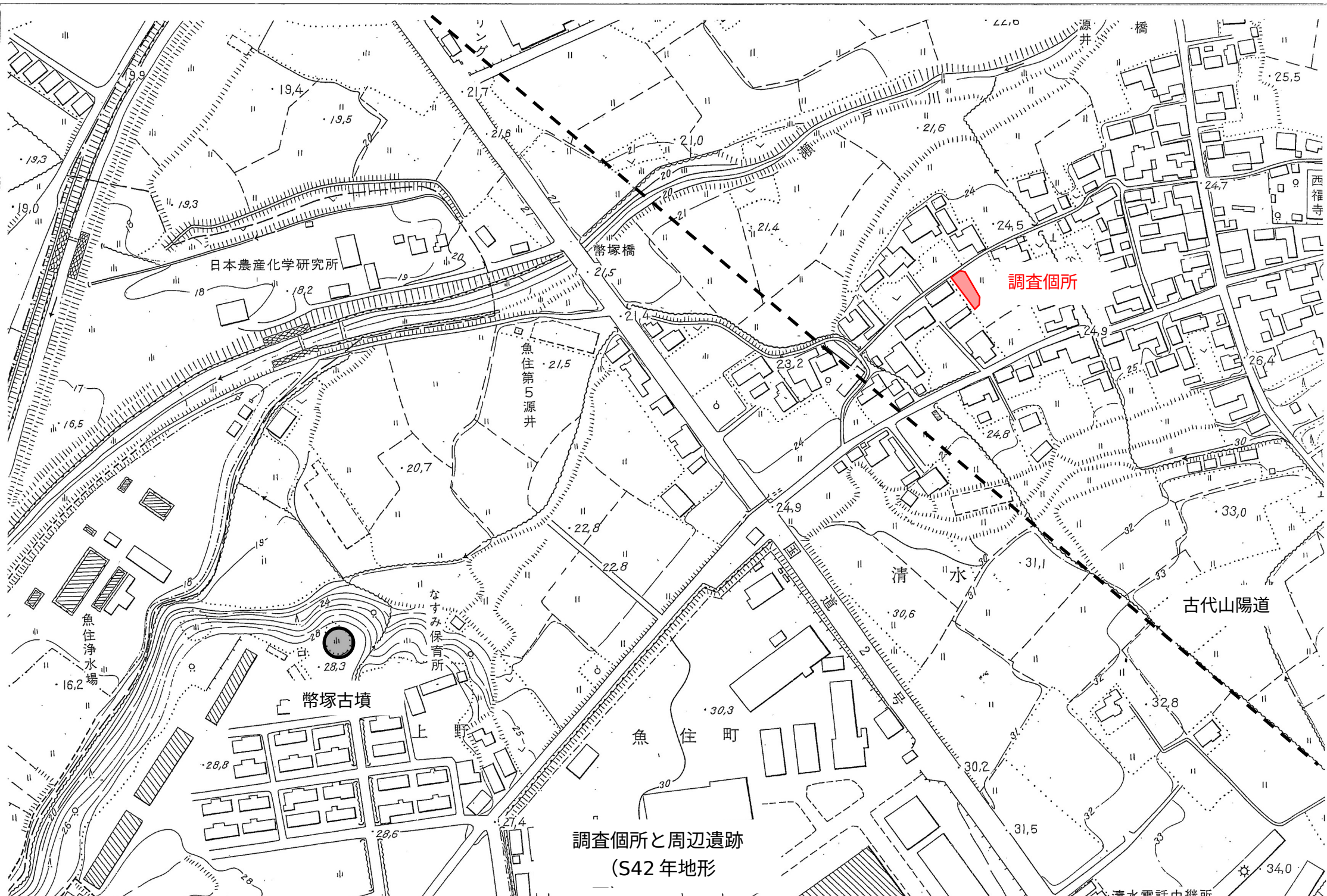
このたびの調査面積は約 85 m²です。調査では、弥生時代の円形の堅穴建物跡や柱穴、土坑、溝などが見つかりました。堅穴建物は直径約 4.5m を測り、現存する深さは最大約 20cm で、埋土からは、弥生時代中期後半に位置付けられる壺や甕^{かめ}、高杯^{だかつき}、鉢などの土器とともに、磨製石剣が発見されました。

石剣は建物の南西隅から両刃を上下に向け、横向きの状態で出土しました。下部は欠損していますが、長さ約 14cm、最大幅 2.5cm です。石材は粘板岩^{ねんばんがん}で、身の中央に鑄^{しのぎ}をもち断面は菱形をしています。磨製石剣は金属製の短剣を模して作られたと考えられ、破損品や再加工品などの切っ先が人骨に刺さった状態で出土することから武器として用いられたと考えられています。ただ、墓から出土することもあり、祭祀などに使われる儀器であったとする説もあります。近隣で磨製石剣が出土した遺跡としては、神戸市西区の頭高山遺跡^{ずこうさん}や西神ニュータウン第 38 地点遺跡などがありますが、明石市内からの出土としては初めてとなります。

頭高山遺跡や西神ニュータウン第 38 地点遺跡は高地性集落と呼ばれる標高の高い丘陵上に居を構えた遺跡です。高地性集落は弥生時代中期から後期に近畿・瀬戸内地域を中心に特徴的にみられる遺跡で、その性格はいまだよくわかりませんが、戦いに備えた遺跡という説もあります。魚住清水遺跡は高地性集落ではありませんが、瀬戸川沿いの低地を見下ろす段丘端部に位置しています。

今回の調査は、弥生時代中期末における当地域の社会の動向を探るとともに、石剣をもつ遺跡の性格を探っていくうえで貴重な発見となりました。

現地は、調査後埋め戻されているため、すでに見ることはできませんが、今回の調査で出土した磨製石剣は、魚住収蔵庫において開催中の「石器展」にて 9 月 15 日（祝・月）まで展示しています。





魚住清水遺跡Ⅰ区調査区全景



魚住清水遺跡竪穴建物跡



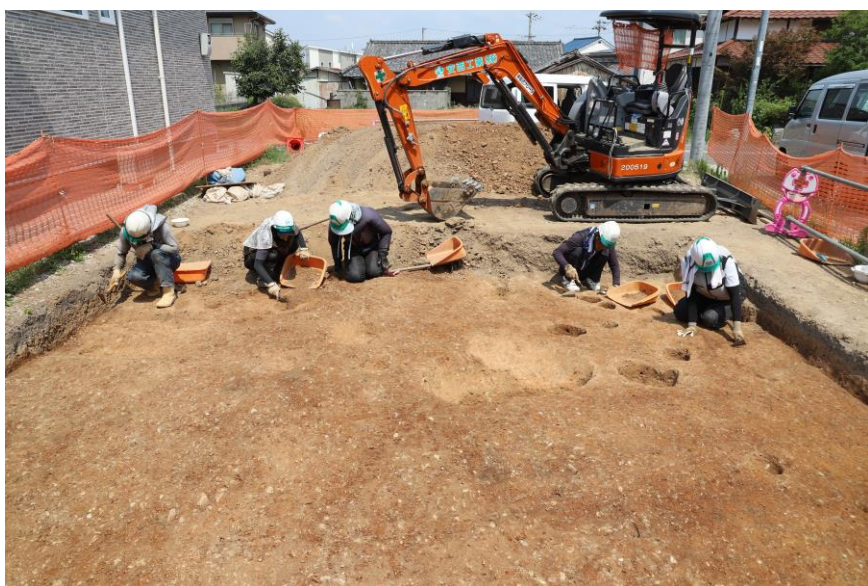
竪穴建物内遺物出土状況



磨製石剣出土状況



作業風景



作業風景

